

県西総合公園 植栽管理業務委託 共通仕様書

筑西広域市町村圏事務組合

第1章 総則

1 適用

本仕様書は、筑西広域市町村圏事務組合（以下「組合」という。）県西総合公園における植栽管理業務委託に適用する。

2 目的

県西総合公園の植栽管理業務を行い、都市公園としての本来の姿を堅持し、公園利用者へのサービス向上を図るため植栽管理を行う。

3 業務名

県西総合公園 植栽管理業務委託

4 業務場所

茨城県筑西市桑山2818番地 県西総合公園内

5 業務範囲

別紙内訳書及び図面参照

6 業務期間及び時間

令和8年4月1日から令和9年1月22日まで。

作業時間は、原則として午前8時30分から午後5時までとする。

7 書類の提出

受託者が提出する書類は、組合財務等に関する規則によるもののほか、次の各号に定めるとおりとする。

(1) 着手時

- ① 現場代理人届、着手届及び工程表を契約締結後5日以内に提出すること。
- ② 使用材料（変更）許可書を薬剤散布及び施肥等の施工に際して事前に提出すること。
- ③ その他組合が必要に応じて指示するもの。

(2) 実施期間中

- ① 業務日報（業務場所及び詳細を記したものであること。）
- ② その他組合が必要に応じて指示するもの。

(3) 完了時

- ① 業務完了報告書
- ② 記録写真（着手前、業務中及び完了時の写真を作業ごとに撮影し、余白に日付を記入すること。

※1部提出すること。ただし、第3工区及び第4工区については、四半期毎に3部提出すること。

- ・ 写真はカラー版とし、同じ位置、同じ方向から撮影したものであること。
- ・ 記録写真については、業務期間中においても、組合から求められた場合には提出すること。
- ・ 写真の提出の際は、着手前、業務中及び完了時の順番で統一すること。
- ・ 刈り草・枝葉等の集草作業時及び処分先の写真を提出すること。

- ③ その他組合が必要に応じて指示するもの。

※提出書類は、全て任意様式とする。

8 支給品について

本業務に使用する水は、組合が支給する。また、その他の必要な使用資機材等は全て受託者の負担とする。

9 現場の安全管理

- (1) 危険な場所の作業には、安全装置を施す等、危険防止に努めること。
- (2) 作業中は県西総合公園の運営に支障のないよう配慮するとともに、来園者に対し危険のないように十分注意して実施すること。
- (3) 施設、樹木等を損傷しないよう十分注意して施工すること。万一損傷した場合は受託者の負担で原型に復すること。
- (4) 受託者は、人身事故、災害又は第三者に損害を与える事故等が発生した場合は、応急処置を講ずるとともに事故発生の原因、経過及び事故による被害の内容等について遅滞なく組合に書面により報告すること。
- (5) 作業中、園内又は敷地内で危険物若しくは異物を発見したときは、手を触れることなく直ちに組合に通報し、指示を求めること。
- (6) 公園緑地等へ作業車両を乗り入れる場合は、組合から園内通行許可証の交付を受け、作業車両の見やすいところへ掲示するとともに、徐行すること。
- (7) 受託者は、豪雨、強風、積雪などの荒天時に際しては、天気予報などの情報を把握し常にこれに対処できるように準備をしておくこと。
- (8) 受託者は、ガソリン、電気、農薬等の危険物を使用する場合は、その保管及び取扱について、関係法令の定めるところに従い、安全対策を講じること。
- (9) 作業に従事する者は、作業に支障のない服装、ヘルメット、安全ベルトなどを着用し、安全対策を講じること。

10 特記事項

- (1) 受託者は、内訳書に基づいて実施工程表を作成し、各作業実施日には、当日の予定作業内容を書面又はファクスで組合に連絡し事前に承認を得ること。
- (2) 受託者は、薬剤等内訳書に記載された使用材料の納入の際には組合の立会いを求め、材料名、撮影日、撮影場所、受託者名等必要事項を記入した黒板と共に撮影しなければならない。
- (3) 受託者は、業務によって汚れた公園設備及び園路を速やかに清掃しなければならない。また、作業中であっても、組合が必要と認めた場合には清掃を行うこととする。
- (4) 当該業務により発生した刈り草・枝葉等の処分費用は、委託料に含むものとする。また、刈り草・枝葉等の処分については、受託者の責任において関係法令等に基づき、適正に処分を行うこと。
- (5) 病虫害防除（薬剤散布）の際は、事前に作業日時、作業内容を記入した作業告知立て看板及び立ち入り禁止の立て看板を現場に設置すること。

なお、立て看板の表示内容については、設置前に公園担当者に確認し、承認を得ること。

第2章 共通事項内容

1 業務内容

(1) 芝生刈り込み

時期や芝の種別により最適な高さになるように芝生の刈り込みを行うこと。また、刈り込みに際しては、石や空缶等の障害物をあらかじめ取り除き、刈りむらや刈り残しの無いように均一に行い、低木等や構造物に接する部分は、芝等のほふく茎又は地下茎を傷つけることのないよう当該地被の縁切りを行い、せん除した茎葉は、速やかに処分すること。

(2) 草地刈り込み

公園内草地の美観維持及び防犯防災を図るため、草刈りの時期等は雑草の種類や生長状況にあわせ、最短で最適な高さになるよう刈り込みを行うものとする。また、草地刈りに際しては、石や空缶等の障害物をあらかじめ取り除き、刈りむらや刈り残しの無いように均一に刈り込むものとし、周辺の樹木、草花、株物、工作物等を損傷しないように注意し、それらに絡んでいるツル植物等もあわせて除去するものとする。また、刈草は速やかに処分すること。

(3) 寄植の刈り込み

刈り込みについては、自然に備わった原型を保つことを基本として行うものとする。剪定及び刈り込みの時期、方法、高さについては、それぞれの樹種の特性或剪定及び刈り込みの目的に応じて、最適な方法を選ぶものとする。また、剪定した枝葉は、速やかに処分するものとする。

(4) 芝生施肥、寄植施肥

指定量を全面均一に散布し、肥料むらが出ないように注意すること。また、降雨直後で葉面が濡れているときを除き、できる限り刈り込み後などに散布を行う。

(5) 目土掛け

指定量を芝生全体に均一に散布して敷きならし、芝生の茎葉部の間に詰めるように入念にすり込むとともに、芝生面の不陸整正を兼ね、低い部分には、厚めに目土掛けを行うものとする。特に不陸の甚だしい部分は、芝生をはぎ取り下部に目土を加え、高い部分は周囲の高さを考慮しながら「たこ」で静かにつくなどの方法により、芝生表面の補修調整を行うものとする。目土に使用する山砂は、植物の根茎やがれき等がなく、細土とする。

(6) 薬剤散布

薬剤散布を行う場合は、開園日の早朝又は休園日とし、降雨時及び降雨が予想される場合並びに風がある場合は作業を行わない。薬剤の希釈濃度及び散布量について、充分留意して作業を行うこと。また、散布むらの無いよう散布すること。

芝生除草剤散布時、寄植・低木附近を作業する場合、散布液が寄植・低木の葉に掛からないよう対策を講じて作業すること。また、フェンス際には、公園外の歩道や田畑に薬剤が飛散しないよう、防護板を当てて散布する等対策を講じ動噴機は使用せず手作業にて散布すること。

2 その他

受託者は本仕様書に定めのない事項で疑義等が生じた場合は、組合とその都度協議を行い取り決めるものとする。

第3章 薬剤散布特記事項

1 薬剤使用前の注意事項

- (1) 当日の作業が円滑に行えるよう、事前に防除する面積や使用する薬剤の安全使用基準をよく把握しておくこと。(ラベルの表示事項は必ず読むこと。)
- (2) 作業する前日までに、使用する防除器具、作業衣等の点検を充分に行っておくこと。
- (3) 散布された薬剤の飛散により、近隣区域が汚染されることのないよう、現場の状況を充分考慮した防除計画を立てること。

2 薬剤運搬時の注意事項

薬剤を運搬するときは、厳重に包装して運ぶこと。運搬中に破損して薬液が身体に触れると危険であるので特に注意すること。

3 薬剤調整時の注意事項

- (1) 散布液の調整は薬剤の知識がある現場責任者が行うこと。(石灰硫黄合剤と他の薬剤を混合するときは、硫化水素が発生することがある。)
- (2) 薬液が飛散しても直接肌に触れることのないよう、必ず手袋、メガネ及びマスクを着用し、皮膚の露出部分をできるだけ少なくすること。
- (3) 液剤を量るときは、瓶の周囲に薬液がつかないように注意し、計り終わったら1回ごとに必ず栓をしておく。瓶の周囲に薬液がついたときは、布等でよく拭き取ってあとをよく洗うこと。その場合汚れた布等は関係法令の定めるところに従い安全に処理すること。
- (4) 薬剤を道路や土壌にこぼした場合は、関係法令の定めるところに従い安全に処理すること。
- (5) 薬剤の希釈濃度は、定められた濃度を遵守すること。

4 薬剤使用時の注意事項

- (1) 薬剤散布作業時は、必ず現場責任者(業務責任者)が常駐し、作業指導や来園者等に対する安全に充分留意して作業を行うこと。絶対に作業員だけで薬剤散布作業をさせてはならない。

業務責任者は、緑の安全管理士の資格や農薬適正使用アドバイザーの講習を受けた者とする。

- (2) 散布作業に慣れてくると、取り扱いが粗雑になったり、油断からの不注意による事故が起りやすいので、注意を怠らないこと。
- (3) 安全な服装で作業にあたり、薬剤による影響が無いよう安全対策を講じること。(帽子、薬剤用マスク、防護メガネ、手袋、長袖の上衣、長ズボン、長靴等を着用する。)
- (4) 樹木のように高いところへ薬剤を散布する場合は、直接薬剤が肌に付かないよう安全対策を講じること。
- (5) 来園者をはじめ周囲の対象物以外の物に薬剤が掛からないよう万全の注意を払い、安全対策のための人員配置を行うこと。

事前に作業日時、作業内容を記入した作業告知立て看板及び立ち入り禁止の立て看板を現場に設置すること。

なお、立て看板の表示内容については、設置前に公園担当者に確認し、承認を得ること。

- (6) 作業は、日中の暑い時を避けて朝の涼しい時間帯に行い、同じ者が長時間散布を行わないこと。
- (7) 万一、中毒等の症状があるときは医師の診断を受けること。また、その際薬剤名を必ず告げること。

- (8) 薬剤容器を公園内等に放置してはならない。容器の管理には充分留意すること。（関係法令を遵守すること。）
- (9) 薬剤の希釈濃度及び散布量について、充分留意して作業を行うこと。また、散布むらの無いよう散布すること。
- (10) 芝生除草剤散布時、寄植・低木付近を作業する場合、散布液が寄植・低木の枝葉に掛からないよう対策を講じて作業すること。（例 防護板を当てて散布する等）
- (11) 薬剤散布時は天候に充分留意し、降雨時及び降雨が予想される場合、風がある場合は作業を行わないこと。また、作業開始後天候が変化した場合についても、直ちに作業を中止すること。
- (12) 薬剤希釈タンクは、使用する薬剤に応じて区別しておくこと。特に、除草剤に使用するタンクは除草剤専用とし、タンクにその旨を明示しておくこと。他の薬剤と絶対に共用させてはならない。
- (13) 薬剤散布作業時は、散布場所を十分に考慮し、フェンス際には、公園外の歩道や田畑に薬剤が飛散しないよう、動噴機は使用せず手作業により散布すること。また、対象物以外の物にかからないよう、遮蔽物（防護板など）を置くなどの対策を講じて作業すること。
- (14) 農薬残留に関する安全使用基準において定められた使用時期、使用回数及び方法、その他の事項を遵守すること。
- (15) 公共の場である公園内における薬剤散布作業であることを充分認識して作業を行うこと。
- (16) 原則として業務時間は、午前 8 時 30 分（開園時間）からであるが、薬剤散布を行う場合は、原則として休園日とし、天候等による休園日以外の業務実施については、開園前の早朝実施など組合と協議のうえ取り決めるものとする。

5 薬剤使用後の注意事項

- (1) 使用残りの廃液が生じないように調整を行うとともに、散布に使用した器具及び容器を洗浄した水は、池・水路等に流さず、関係法令を遵守し適切に処理をすること。
- (2) 薬剤の空容器、空袋等の処理は、関係法令を遵守し、適切に処理すること。